

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドサポートみやこⅡ 放課後等デイサービス		公表日		令和 8 年 4 月 1 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	3	・限られた空間の中で、物品の配置を工夫しながらスペースを上手く活用していると思う。	・今後は子ども達の身体の成長も考慮し、スペースの工夫は継続しながら、グループ活動を行なう事で限られた空間の中で支援を行なう事ができる
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	6	・基準の人数は満たしているが、1対1で支援が必要な児度もいるので人員が不足に感じる ・皆で声かけ合いながら、安全に運営し	・1対1の児童の見守りや対応を、自立度が高い児童と一緒にを行う事で、決まった人数で負担を減らし支援できるよう工夫する。
	3	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	・ロッカーを配置、名前のラベルを貼る等、空間の認識に繋がるよう工夫している	・玄関はバリアフリーになっているが、それ以外の場所に関しては、簡易的な板で対応している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		・子ども達の自立支援も兼ねた、清掃活動として日頃から清潔な空間の維持を行っている	・今後も同対応の継続、子ども達と一緒に清潔保持を継続
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		・職員の見守りがある条件下での環境設定となっている	・今後も同対応の継続、子ども達のリスク管理も行ないながら、主体性を活かした取り組みを継続していく
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9		・MTGの時間を使い、振り返りを行うことが出来ている ・振り返りを行い、目標の再設定を行い、計画の見直しにも活かす事に繋がっている。	・週休等で休んでいる職員の意見の吸い上げができていないので、偏った振り返りにならない為に、前以て休みの職員の意見は確認、MTGで共有することで、全員の意見の吸い上げに繋げる
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	5	・定期的に保護者の意見を吸い上げる面談を実施、意向の確認を行う時間は確保している	・保護者向けの評価表の活用共通認識を持ち、評価表の目的を理解し業務改善や事業所の質上げに繋げる。評価表を定期的に目を通す時間を作り、職員全体の課題意識を上げる
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・定期的な外部講師による研修の受講時間を設け、職員の資質向上を図っている。	・今後も同対応の継続、全員が意見を出すことができる雰囲気作りを行いながら、業務改善の課題抽出を行って行く
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	4	・第三者の出入りはあるが、外部評価の実施は不明 ・第三者による研修等の開催は定期的に行われているが、事業所に対する評価に繋がっているかはわからない	・外部評価を活用し、客観的な意見を踏まえて改善を行えるよう、評価表の見直しや評価表の確認を行う時間を事業所で確保、全員の共通認識に繋げる
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		・定期的な外部講師による研修の受講時間を設け、職員の資質向上を図っている。	・今後も同対応の継続を行い、資質向上につなげる
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		・個々の特性を加味した内容を作成している。 ・特定の職員の作成にならないよう、職員全員が参加してプログラムの作成を行っている。	・今後も同対応を継続、公表時期の共有も事業所MTGで伝え全体周知を行う
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		・専門職の意見も反映しながら、適切な評価、分析を行っている。 ・職員全員が評価する時間を設け、適切なアセスメントが出来ている	・今後も同対応の継続、児童の成長に伴い、課題やニーズも変化がみられるが、保護者や児童の意見の吸い上げを行う時間を定期的に持ち、計画書に反映していく
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		・モニタリングの時間を使い、全員が意見を述べる事が出来ている	今後も継続して実施していく。定期的に子供の権利についての勉強会の実施を検討
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		・計画書を全体で共有することで、計画書の内容共通認識に繋がり、計画に沿った支援の提供に繋がっている	・同対応の継続、全員が計画書の内容を理解し、不明な点は確認しながら支援を行っていく
	15	こどもの追加行動状況を、標準化したツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2	・就労に向けてツールを使用し、現状の評価を行うことで、職員全員が共通認識を持ち児童の課題の抽出に繋がった。	・ツールを使用する目的が理解できていない職員のために、使用する前に共通認識を持つことで、目的を明確にし、児童の標準的な評価の役立てる
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		・個別支援計画書の中にガイドラインに沿って記載する箇所があるので、全員の認識に繋がっている。 ・不明な点や支援内容の確認を都度、行えているので、支援目標が明確化されている。全員が把握できている	・今後も同対応の継続。不明な点等は迅速に解決することで、曖昧な支援の提供を防止する事に繋がるので、MTGの時間を活用し、全員が共通認識を持ち、支援を提供出来るようにする。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		・全員が活動の内容を話し合い、全員が協力しながら立案、修正を行っている。	・今後も同対応の継続、支援内容に沿った活動を提供し、振り返り等も継続して行っていく
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		・様々な活動を立案、提供している。児童の主体性も尊重しながら活動プログラムに児童の意見を反映している。	・今後も同対応の継続、児童の意見も反映し、固定化せず様々な体験が出来る活動のプログラムの立案を行っていく

の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		・個別時間と集団の時間は部屋を別にする事で、子ども達の空間認識理解に繋がるよう環境設定の工夫をしている。	・今後も同対応の継続、グループに分けて集団活動や個別活動の時間提供を行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		・元里が来がする前にMTGの時間を確保し、MTGを実施、児童の様子や役割について確認、共有を行う事でスムーズに支援に入る事が出来る	・今後も同対応の継続、職員が参加できない職員の為に議事録を残し、全員が共通認識の元、支援を提供出来るよう連携していく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	・事業所の運営時間ギリギリまで児童を預かっているため、終了の振り返りが未実施。翌日の中礼で共有している。 ・中礼の中で気付いた点の共有を行っている。 ・毎回の振り返りは人員的に実施が難しい時もあるので、口頭やライン等を活用している	・議事録ノートを作り、全員が確認できるようにする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		・実施出来ている	・今後も同対応の継続
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		・定期的にモニタリングを行い、計画書の見直しの実施、適切な支援に繋がっている。	・今後も同対応の継続、定期的なモニタリングを行いながら、児童の特性や成長を見据えた支援を提供していく
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	9		・基本活動を軸とした活動を提案、提供できている。 ・個々の能力に差があるので少人数のグループに分ける事で、基本動作を組み込んだプログラムの実行に繋がっている。	・今後も同対応の継続、基本動作のベースを全員が共通認識として持ち活動の幅を広げる。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	1	・活動プログラムは、子ども達が選択、自己決定できるような内容を提供している。 ・人員の配置が難しい時は、こども達の意見を吸い上げずに、職員主体の運営を行なう時もある	・自分で選択する機会を増やすことができるよう活動の事前準備にも子ども達が参加することで、意思決定、協調性等の社会性の向上に繋げる。人員配置が難しい時でも選択機会を目指して、小さな事でも児童に選択、自分の意思決定の体験を積み重ねる機会を提供していく
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		・会議の内容について、事業所で話合う時間を事前に持ち、会議に参加できない職員の見解も吸い上げて参画している。	・今後も同対応の継続、事業所の意見が会議の中で反映、支援の質上げや改善に繋げるよう職員の見解を吸い上げるMTGを事前に行う。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	2	・限られた関係機関の中で、連携はできているが、支援の体制が十分かは分からない。必要性を感じた時に連携できる体制を整える。	・地域の環境資源の把握、支援体制の充足を図る為、関係機関や相談事業所と連携し、必要な関係機関と連携支援できるよう情報収集を行う
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	1	・関係する事業所との情報共有は朝礼時に行い、情報漏れや調整等を行っている。 ・下校時や書面で学校の情報の共有を行い、トラブルに対するリスクマネジメントを実施	・連絡調整は口頭等を行い、大きなトラブルは起きていないが、イレギュラーや年度の初めは連携が上手く行かず、ヒヤリ、事故が発生するので、調整の仕組み化の明確化と全員が視覚的に周知できるよう改
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9		就学後年数が経っている児童しか在籍しないため未実施	今後該当することがあれば計画を立て実施する
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9		卒業となる児童が在籍しない為未実施・過去、卒業後の機関とは連携し、特性や留意点を共有する事で卒業後も地域で自主性を持って生活できるよう、支援を繋いでいる	・今後も同対応の継続、必要に応じて、卒業後の機関と連携していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	7	・地域の児童発達支援センターとの連携はないが、外部講師の研修や助言を受ける機会を設けている。	・外部講師の研修の受講は継続し、職員のスキルアップや事業所の質上げを行って行く。研修以外でも、面談等の個別対応を行う時間も確保していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	1	・地域の児童館のイベント参加や屋外活動等で、地域の他児と関わる機会を設ける事は出来た。	・交流は実施できているが曜日が固定化されているために偏りががる。実施曜日等を人員配置を考慮しながら計画を検討
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	5	3	・名前を聞いたことはあるが、協議会の開催や目的を把握していない。 ・責任者・児発管などで参加できる時に参加している	・他の関係機関と連携し、情報の収集を行う。 ・協議会の開催の目的を理解し、参加できるように、人員の調整を行う。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8	1	・お迎え時に事業所の活動の様子を伝えながら、児童の発達や課題を伝える事が出来ている ・迎え時間が重なる時、児童見守りや送り出しの対応職員で、活動の様子や課題、状況を伝える時間の確保が難しいが、日をずらす等工夫しながら詳細を伝えている	・保護者の認識と事業所の認識に相違がある時はあるが、面談等を実施し、状況、課題の共通認識に繋がっている
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	1	・情報を提供しているが、就業時参加が少ないので、研修の案内を早めに提示し保護者が参加できるように工夫している	・アナウンス力が弱いため、口頭や書面のみではなく、日頃の保護者との会話の中で困り感を吸い上げ、個別対応や困り感に沿った研修の受講機会を設定し、保護者の対応力向上を図る
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		・主に児童発達支援管理者が行っているが、支援プログラムや利用者負担に関しては職員全体が共通認識を持って運営できるよう全体に周知している	・今後も児童発達管理責任者が実施、保護者の不安に繋がらないよう、説明時間の中で不明点の確認、解消を行う。今後も同対応の継続。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	1	・保護者面談を設定し、ご家族の想いや将来を見据えた要望等を確認し、計画書に反映している	・児童に対する事業所とご家族の認識の相違が生じる場面があるので、児童に取っての最善を一緒に考え、支援計画書に反映出来るよう、日頃からのコミュニケーションを図る。 ・ご家族の意向や状況に応じた児童の最善の利益を確保出来るよう定期的な面談の実施。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		・児童発達管理責任者が説明、同意を得て支援を行っている	・責任者を含む職員全員が作成した計画書についてご家族に説明できるよう共通理解を持つ

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		・相談に対して迅速に対応しているが、事業所で対応が困難なケースは関係機関と連携し、悩み解決に繋げている	・相談内容や対応方法は共通認識を持つ
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	3	親子参加型のイベントの実施を通じ交流の場を提供している ・お迎え時に保護者同士が自発的に話す様子が見られた際は、少し時間をずらし、児童を引き渡す事で保護者で話が出来る環境を提供している	今後も法人全体での季節のイベントを通して、他事業所の兄弟児とも交流を行う機会の提供を行っていく。保護者交流会は中々開催出来ていないので、児童と一緒に参加出来る交流会の開催を計画、実施。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		・実施できている	・今後も同対応の継続
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	3	・SNSで活動の様子を発信しているが、定期的に更新ができていないので他事業所と連携し、週担当を決め、業務負担の軽減に繋げている	前回の課題からインスタグラムに変更出来ている。投稿頻度役割分担を行い定期的の実施できるように計画
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		・今後も同対応の継続 ・活動の様子等の写真は全体会議時に消去する時間を設け、個人情報の取り扱いには会社全体で取り組みをしている	・今後も同対応の継続
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		・今後も同対応の継続	・今後も同対応の継続
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9		・地域住民が参加できるイベントは前以て、地域の方に案内、協力を依頼し気軽に参加できるよう工夫している	・参加型イベントの種類、頻度が少ないので、季節のイベントや事業所を解放したイベントの開催を行い、地域理解に繋
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	2	・各種マニュアルは事業所で管理、緊急時対応マニュアルはモニタリングの場を使い、保護者に確認、更新を行うことで安心して利用してもらえるよう訓練実施の様子を共有している	・各種マニュアルを管理し、不定期ではあるが、シミュレーションは実施できているが、年度内に振り返りを行った内容を基に再度、同内容のシミュレーションの実施までは行っていないので、委員会等の法人の仕組みを使いながら、シミュレーションの回数増、内容のレベルアップを行うことが出来るよう、年間行事に入れ込み、全員が視覚化
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		・今後も同対応の継続	・今後も同対応の継続、訓練を振り返りを活かし、様々な状況を設定した訓練を行う。訓練の回数を増やし、災害に対する備えを強化する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		・今後も同対応の継続	・今後も同対応の継続 ・服薬の期限を全員が把握できる仕組みを視覚化し、服薬の管理を徹底する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		・食物アレルギーの児童が現在0名のため、指示書もない。	・今後、アレルギー有りの児童が利用を行ったことを想定し、緊急時対応のシミュレーションを実施。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	2	作成されており、年間で訓練・研修を実施できている	振り返りを行うがその後の反映や対策までが出来ているかが不透明に感じる。今後反映までできるように計画を行っていく
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	2	・こまめに家族との連携は行っている。安全計画等を周知、理解してもらう時間を確保し、説明を行っている	・説明に費やす時間が短く、保護者の理解に繋がっているか不明、計画書を作成し、理解に繋げる。取組内容に関しては保護者の意見を反映できるように意見を吸い上げる場の提供を行う。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		・今後も同対応の継続	・今後も同対応の継続 ヒヤリハット、事故報告の報告の頻度が少ないので、ヒヤリ、事故に対する感度を上げる研修の実施。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		・年2回の研修は全員が必須で受講、虐待に対する認識向上、虐待、身体拘束の知識を身につける子事で適切な支援の提供に繋げている	・今後も同対応の継続、身体拘束、虐待防止を行う。変更時は必ず説明、同意を得る。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		・虐待防止委員会を構成し、虐待、身体拘束を防止している。強度行動障害児や身体拘束を必要とする児童は居ないが、個別支援計画書には必要時の拘束を記載し、承諾を得ている。	・今後も同対応の継続、身体拘束、虐待防止を行う。変更時は必ず説明、同意を得る。